



福井県立大学
Fukui Prefectural University



アグリシーズ
Agriseeds

2026年5月14日

最新ゲノム解析技術でイネ新品種の短期開発に挑戦

一産学連携で現場ニーズに応える新品種育成へー

公立大学法人福井県立大学（所在地：福井県吉田郡永平寺町、学長：岩崎行玄、以下「福井県立大学」）と株式会社アグリシーズ（所在地：東京都板橋区、代表取締役：山根精一郎、以下「アグリシーズ」）は、全ゲノム情報を活用した迅速なイネ育種に共同で取り組みます。両者は、アグリシーズが保有する高収量、極良食味、耐倒伏性で直播適性が高い「とねのめぐみ」および「ほうじょうのめぐみ」を基盤に、病害や高温環境への対応力をさらに高めた新品種の短期開発を目指します。

育種開始から4年で実用化を目指す

一般に、イネの新品種育成には少なくとも7～8年、実用化までには10年前後を要するとされています。これに対し、本取り組みでは、「とねのめぐみ」および「ほうじょうのめぐみ」を基盤に、高温耐性、いもち病抵抗性、縞葉枯病抵抗性の付与および向上を迅速に進めます。育種開始から4年後の品種登録申請を目標に掲げ、従来育種に比べて大幅に短い期間で、生産現場や実需者の要望に応える品種育成に挑戦します。

ゲノム情報を活用した高速育種の考え方自体は新しいものではありませんが、これを産学連携の枠組みの中で実際のイネ品種改良に本格的に展開し、生産現場や実需者のニーズに結びつく品種育成へとつなげていく点に、本取り組みの大きな意義があります。

地域に根ざした研究力で新品種開発へつなぐ

本取り組みは、福井県立大学にとっては研究成果の社会実装および産学連携による社会貢献の具体例となるものです。また、アグリシーズにとっては、生産現場や実需者のニーズを踏まえた育種方針を具体化するものです。両者は、それぞれの知見と強みを活かしながら、実用性の高い新品種の育成を目指します。

福井県立大学では、生物資源学部創造農学科（あわらキャンパス）三浦孝太郎教授が本プロジェクトを推進します。三浦教授によれば「本プロジェクトは、イネの品種育成期間を圧縮する挑戦です。優れた既存品種を土台に、必要な形質だけを狙って組み合わせることで、これまで長い年月を要してきた品種開発を大きく前進させます。福井県立大学で蓄積したノウハウを生かして、実際の品種として現場に届けるところまで一貫してやり切る試みで、地方大学の実力を示す挑戦でもあります。」とのことでした。

「とねのめぐみ」（中生）

コシヒカリより 10%以上多収。移植・直播で 12～13 俵/10a を目指せる。極良食味。冷めても硬くならず美味しい。耐倒伏性で直播適性が高い。

「ほうじょうのめぐみ」（早生）

あきたこまちより 15%以上多収。移植・直播で 12～13 俵/10a を目指せる。極良食味。冷めても硬くならず美味しい。耐暑性。耐倒伏性で直播適性が高い。

お問合わせ先

公立大学法人福井県立大学 地域共創部 共創・研究支援課

TEL : 0776-61-6000 (代)

Mail : kenkyu@g.fpu.ac.jp

株式会社アグリシーズ 広報担当

TEL:090-4565-3312

Mail : contact@agriseeds.co.jp